

# 学校法人 柏 専 学 院

## 平成24年度事業報告

### 目 次

第1部	法人の概要	.....	P 1
	Ⅰ. 設置する学校、学部、学科等		
	Ⅱ. 学生数の状況		
	Ⅲ. 役員、教職員の概要		
	Ⅳ. 理事会開催状況		
第2部	事業の概要	.....	P 3
	Ⅰ. 新潟産業大学 経済学部		
	1. 教育		P 3
	2. 研究		P 4
	3. 学生への支援		P 5
	4. 留学生支援		P 7
	5. 学生募集及び入学試験		P10
	6. 地域貢献・生涯学習		P12
	7. 国際交流		P17
	8. 附属図書館		P17
	9. 施設開放		P18
	10. ファカルティ・ディベロップメント及び スタッフ・ディベロップメント		P19
	Ⅱ. 新潟産業大学 大学院 経済学研究科		P20
	Ⅲ. 新潟産業大学 附属高等学校		P21
	1. 「教育等の事業」の概要		
	2. 今年度の実績		
	3. 教育目標実現のために実施した事項並びにまとめ		
	4. 生徒募集		
	5. 新規取組事項		
第3部	財務の概要	.....	P29

# 第 1 部 法人の概要

## I. 設置する学校、学部、学科等

(平成 24 年 5 月 1 日現在)

学校名	学部等	学科等	開設年度	備考
新潟産業大学	経済学部	経済経営学科	昭和 6 3 年度	入学定員 9 0 名
		文化経済学科	平成 2 1 年度	入学定員 7 0 名
		国際コミュニケーション ビジネス学科	平成 1 8 年度	※平成 21 年度募集停止
	大学院 経済学研究科	経済分析・ビジ ネス専攻	平成 1 6 年度	入学定員 1 0 名 ※修士課程
新潟産業大学 附属高等学校	全日制課程普通科		昭和 3 3 年度	入学定員 1 6 0 名

## II. 学生数の状況

(平成 24 年 5 月 1 日現在)

学校名	学部等	学科等	学年	学生数	
新潟産業大学	経済学部	経済経営学科	1 年	5 0	2 9 4
			2 年	7 1	
			3 年	7 6	
			4 年	9 7	
		文化経済学科	1 年	3 1	1 6 3
			2 年	4 1	
			3 年	4 5	
			4 年	4 6	
		国際コミュニケーション ビジネス学科	1 年	—	6
			2 年	—	
			3 年	—	
			4 年	6	
	合計(大学)			4 6 3	
大学院	経済学研究科	1 年	6	1 4	
		2 年	8		
合計(大学院)			1 4		
新潟産業大学 附属高等学校	全日制課程普通科	1 年	1 7 2	4 1 5	
		2 年	1 2 1		
		3 年	1 2 2		
	合計(高校)			4 1 5	
総 計			8 9 2		

### Ⅲ. 役員、教職員の概要

(平成 24 年 5 月 1 日現在)

		現 員					
役員等	理事	監事	役員合計		評議員		
	1 1	2	1 3		2 4		
教員・教諭	大学				高校		
	専任				非常勤	専任	非常勤
	大学院	経済学部	合計				
	—	3 2	3 2		3 9	2 6	1 2
職員	大学				高校		
	専任	嘱託	臨時	合計	専任	嘱託	臨時
	2 9	2	3	3 4	4	—	—

### Ⅳ. 理事会開催状況

回数	開催日	理事定数 8～11 名 (現員 11 名) 監事定数 2 名 (現員 2 名)		議題、報告事項
		出席理事	出席監事	
第 1 回	H24. 4. 1	1 1 名	1 名	議題 1. 理事長、副理事長、常務理事の選任 2. 理事分掌 3. 参与の選任 4. 看護師養成 の学校設置に係る調査
第 2 回	H24. 5. 29	1 1 名	1 名	議題 1. 平成 23 年度事業報告 2. 平成 23 年度決 算 3. 平成 24 年度当初予算の一部変更 4. 「かしわざき荘」の売却公募 5. 評議員の 選任 6. 規程改正 報告 1. 資金運用 2. 「新潟県 魅力ある私立高校 づくり支援事業」の実績報告 3. 看護師養 成の学校設置に係る調査の報告
第 3 回	H24. 5. 29	1 1 名	0 名 (2 名欠席)	議題 1. 平成 24 年度当初予算の一部変更 2. 「か しわざき荘」の売却公募
第 4 回	H24. 11. 29	1 1 名	2 名	議題 1. 理事、評議員の選任 2. 規程の設置、改正 3. 学長の任命 4. 大学人事 報告 1. 「かしわざき荘」の売却に係る経過 2. 学校法人運営調査の結果
第 5 回	H25. 3. 26	1 1 名	2 名	議題 1. 理事、評議員の選任 2. 寄附行為変更
第 6 回	H25. 3. 26	1 1 名	2 名	議題 1. 平成 25 年度事業計画 2. 平成 24 年度第 1 回補正予算 3. 平成 25 年度当初予算 4. 「かしわざき荘」の売却 5. 人事 (大学・ 高校) 6. 資金運用管理方針 7. 規程改正 報告 1. 民事裁判 2. 平成 25 年度入試状況 3. 平 成 24 年度卒業生就職・進路状況
第 7 回	H25. 3. 26	1 1 名	2 名	議題 1. 平成 25 年度事業計画 2. 平成 24 年度第 1 回補正予算 3. 平成 25 年度当初予算 4. 寄附行為変更 5. 「かしわざき荘」の売却

## 第2部 事業の概要

### I. 新潟産業大学 経済学部

#### 1. 教 育

事業項目	平成 24 年度実施内容
(1) 教育環境の整備と質の確保	<p>①カリキュラムの改正            本学ミッションである『地域社会や企業を主体的に力強く支える人材の育成』を遂行するために、平成 25 年度からのカリキュラム改正を決定した。経済と文化の結びつきに焦点を置く地域活性のための教育は本学の特色であり、フィールドワーク授業を取り入れ、「地域おこし大学」「人づくり大学」としての教育に一層取り組む。            カリキュラム改正のカリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）は、本学ホームページに掲載した。  <a href="http://www.nsu.ac.jp/nc/htdocs/outline/policy/?page_id=222">http://www.nsu.ac.jp/nc/htdocs/outline/policy/?page_id=222</a></p> <p>②教育機器の整備            教室固定型プロジェクターとその附属備品の設置、整備を進めた。</p> <p>③社会人学生の受講環境整備            社会人学生を対象に平日夜間及び土曜日の授業を開始した。また、平成 25 年度からのカリキュラム改正に併せ、社会人学生の授業選択傾向を踏まえた社会人学生のための卒業要件を定めた。            その他、平成 19 年度から導入した長期履修制度は、ほぼすべての社会人学生が利用しており、時間的制約の多い社会人学生の受講環境として定着している。</p>
(2) 学習支援の充実	<p>①資格取得支援の強化            この実施項目は、「2. 学生への支援の(5)資格検定等支援～学生の付加価値づくり～」において報告する。</p> <p>②リメディアル教育の充実            リメディアル教育に関する授業科目としての「生活数学」（公文式）に専門スタッフを配置した。</p> <p>③学内情報 I T 利用化の推進            ア. 学生の授業出欠情報を学内ネットワークに掲載することにより、教員が各々担当学生の授業出席状況を確認し、必要な指導等を行える体制を整えた。            イ. W e b シラバス編集を実施した。</p>
(3) 高大連携事業の改善	<p>平成 2 2 年度に締結した「新潟産業大学と新潟産業大学附属高等学校との連携教育に関する協定書」にもとづき、附属高校からの科目等履修生の受入れに関する覚書を平成 2 3 年度に締結し、本年度も継続した。            これにより、本学の「中国語 I A」と「日本語 I C」の授業科目を履修し成績評価で合格した附属高校生には、附属高校の正課授業であるステップアップ科目の単位とともに本学の当該授業科目の単位を与えた。            （参考）この単位認定の取組みの他、附属高校生の進路選択等キャリア開発に関する年間を通じたステップアップ科目を含めて、附属高校と本学との連携教育を「ブリッジプログラム」と呼んでいる。</p>

## 2. 研 究

事業項目	平成 24 年度実施内容																																
(1) 紀要の発行	<p>① 経済学部紀要第 40 号 を平成 24 年 7 月に発行した。</p> <table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">執筆者</th> <th style="text-align: center;">題 目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・青柳 勸</td> <td>スポーツによるまちづくりを見据えた柏崎市における学校プールのあり方に関する研究－財政支出の削減と教育効果の向上の両立を目指して－</td> </tr> <tr> <td>・星野 三喜夫</td> <td>TPP 参加は日本の優先順位の 1 つである</td> </tr> <tr> <td>・橋本 次郎</td> <td>「生活数学」の成績と教育効果</td> </tr> <tr> <td>・小林 健彦</td> <td>北陸、新潟地域の戦国期に於ける災害対処の文化史～事例の検出と人々の災害観を中心として～</td> </tr> <tr> <td>・堀口 俊二・鈴木 武雄</td> <td>ニュートン法から得られる平方根, 立方根, 4 乗根の連分数表示</td> </tr> <tr> <td>・堀口 俊二</td> <td>樋口権右衛門(小林謙貞)の南蛮流測量術と紅毛流測量術</td> </tr> <tr> <td>・盧 貞蘭</td> <td>韓国の M&amp;A 歴史と取り巻く環境</td> </tr> <tr> <td>・片岡 直樹</td> <td>長谷寺銅板法華説相図の銘文について一校訂・解釈・彫刻技法一</td> </tr> </tbody> </table> <p>② 経済学部紀要第 41 号 を平成 25 年 2 月に発行した。</p> <table border="0"> <tbody> <tr> <td>・星野 三喜夫</td> <td>第 3 次アーミテージ・ナイ報告書と TPP</td> </tr> <tr> <td>・小林 健彦</td> <td>慶長年間に於ける謎の災害～文化論としての震災への対処～</td> </tr> <tr> <td>・小林 健彦</td> <td>豊臣秀吉の対東アジア認識～外交文書の分析を中心として～</td> </tr> <tr> <td>・堀口 俊二</td> <td>累乗根を表すいろいろな方程式の土倉・堀口法(村瀬義益・ニュートン型の第一拡張漸化式)の収束比較</td> </tr> <tr> <td>・堀口 俊二</td> <td>ニュートン法の一般化</td> </tr> <tr> <td>・盧 貞蘭</td> <td>韓国のコーポレート・ガバナンス改革を前後して一合併企業の株主の富の変化を中心の一</td> </tr> <tr> <td>・片岡 直樹</td> <td>田村愛之助『聞光寺梵鐘鑄造関係書類』と聞光寺梵鐘</td> </tr> </tbody> </table>	執筆者	題 目	・青柳 勸	スポーツによるまちづくりを見据えた柏崎市における学校プールのあり方に関する研究－財政支出の削減と教育効果の向上の両立を目指して－	・星野 三喜夫	TPP 参加は日本の優先順位の 1 つである	・橋本 次郎	「生活数学」の成績と教育効果	・小林 健彦	北陸、新潟地域の戦国期に於ける災害対処の文化史～事例の検出と人々の災害観を中心として～	・堀口 俊二・鈴木 武雄	ニュートン法から得られる平方根, 立方根, 4 乗根の連分数表示	・堀口 俊二	樋口権右衛門(小林謙貞)の南蛮流測量術と紅毛流測量術	・盧 貞蘭	韓国の M&A 歴史と取り巻く環境	・片岡 直樹	長谷寺銅板法華説相図の銘文について一校訂・解釈・彫刻技法一	・星野 三喜夫	第 3 次アーミテージ・ナイ報告書と TPP	・小林 健彦	慶長年間に於ける謎の災害～文化論としての震災への対処～	・小林 健彦	豊臣秀吉の対東アジア認識～外交文書の分析を中心として～	・堀口 俊二	累乗根を表すいろいろな方程式の土倉・堀口法(村瀬義益・ニュートン型の第一拡張漸化式)の収束比較	・堀口 俊二	ニュートン法の一般化	・盧 貞蘭	韓国のコーポレート・ガバナンス改革を前後して一合併企業の株主の富の変化を中心の一	・片岡 直樹	田村愛之助『聞光寺梵鐘鑄造関係書類』と聞光寺梵鐘
執筆者	題 目																																
・青柳 勸	スポーツによるまちづくりを見据えた柏崎市における学校プールのあり方に関する研究－財政支出の削減と教育効果の向上の両立を目指して－																																
・星野 三喜夫	TPP 参加は日本の優先順位の 1 つである																																
・橋本 次郎	「生活数学」の成績と教育効果																																
・小林 健彦	北陸、新潟地域の戦国期に於ける災害対処の文化史～事例の検出と人々の災害観を中心として～																																
・堀口 俊二・鈴木 武雄	ニュートン法から得られる平方根, 立方根, 4 乗根の連分数表示																																
・堀口 俊二	樋口権右衛門(小林謙貞)の南蛮流測量術と紅毛流測量術																																
・盧 貞蘭	韓国の M&A 歴史と取り巻く環境																																
・片岡 直樹	長谷寺銅板法華説相図の銘文について一校訂・解釈・彫刻技法一																																
・星野 三喜夫	第 3 次アーミテージ・ナイ報告書と TPP																																
・小林 健彦	慶長年間に於ける謎の災害～文化論としての震災への対処～																																
・小林 健彦	豊臣秀吉の対東アジア認識～外交文書の分析を中心として～																																
・堀口 俊二	累乗根を表すいろいろな方程式の土倉・堀口法(村瀬義益・ニュートン型の第一拡張漸化式)の収束比較																																
・堀口 俊二	ニュートン法の一般化																																
・盧 貞蘭	韓国のコーポレート・ガバナンス改革を前後して一合併企業の株主の富の変化を中心の一																																
・片岡 直樹	田村愛之助『聞光寺梵鐘鑄造関係書類』と聞光寺梵鐘																																
(2) 競争的外部資金の獲得	<p>① 平成 24 年度科学研究費補助金</p> <table border="0"> <tbody> <tr> <td>・片岡直樹</td> <td>「長谷寺銅版法華説相図の研究」800,000 円</td> </tr> <tr> <td>・高橋眞一</td> <td>「地域からみた日本の低出生力化(少子化)の研究」780,000 円</td> </tr> </tbody> </table> <p>② 内田エネルギー科学振興財団助成金</p> <table border="0"> <tbody> <tr> <td>・アハメド</td> <td>シャハリアル「高齢者の関節可動域を拡張するための他動式運動機の試作－足首間接運動支援システムの開発－」250,000 円</td> </tr> <tr> <td>・小出瑞康</td> <td>「縦渦励振駆動型マイクロ発電機における円柱に作用する変動揚力と円柱振動の位相の関係」100,000 円</td> </tr> <tr> <td>・藤井信行</td> <td>「エネルギーと環境問題」および「カラー画像と視覚」他 150,000 円</td> </tr> </tbody> </table>	・片岡直樹	「長谷寺銅版法華説相図の研究」800,000 円	・高橋眞一	「地域からみた日本の低出生力化(少子化)の研究」780,000 円	・アハメド	シャハリアル「高齢者の関節可動域を拡張するための他動式運動機の試作－足首間接運動支援システムの開発－」250,000 円	・小出瑞康	「縦渦励振駆動型マイクロ発電機における円柱に作用する変動揚力と円柱振動の位相の関係」100,000 円	・藤井信行	「エネルギーと環境問題」および「カラー画像と視覚」他 150,000 円																						
・片岡直樹	「長谷寺銅版法華説相図の研究」800,000 円																																
・高橋眞一	「地域からみた日本の低出生力化(少子化)の研究」780,000 円																																
・アハメド	シャハリアル「高齢者の関節可動域を拡張するための他動式運動機の試作－足首間接運動支援システムの開発－」250,000 円																																
・小出瑞康	「縦渦励振駆動型マイクロ発電機における円柱に作用する変動揚力と円柱振動の位相の関係」100,000 円																																
・藤井信行	「エネルギーと環境問題」および「カラー画像と視覚」他 150,000 円																																

### 3. 学生への支援

事業項目	平成 24 年度実施内容																																		
(1)学生行事・学生活動	<p>①学園祭など学生主催行事に対する支援            ア. 週 1 回の学友会・学生行事実行委員会ミーティングにおいて、学生課職員が学生行事等の企画に対する指導助言を行った。            イ. 学園祭の企画立案について、新規企画や集客を図るための方策、広告・協賛金依頼方法など指導を行った。            ウ. 学生企画の「産大カップ（バスケットボール大会）」（8 チームが参加した。）に助言を行った。</p> <p>②公認部・サークル活動の活性化            学生の公認部・サークル活動の活性化を推進し、その結果学生の加入率が、平成 23 年度 67%から平成 24 年度 77%に上がった。            ア. 新入生学外合宿研修において、先輩部員によるサークルの紹介を実施するとともに、学生課にて新入生に対し「課外活動見学会の希望調査」を実施し、新入生に部・サークル加入を働きかけた。            イ. 新年度ガイダンス及び 1 年次必修科目「基礎ゼミナール」の授業時に部活動・サークル活動の大切さを説明した。</p> <p>③「学生相談」態勢の充実            ア. 学生課医務室職員（看護師・初級カウンセラー）が、健康相談及びメンタルヘルスの対応を行った。            イ. 学校医（精神科医師）と専門医（心身医療科医師）によるカウンセリングを毎月 4 回実施した。            ウ. ゼミ担任と C L A（事務職員キャンパスライフアドバイザー）協働で学生生活個別面談を実施した。            エ. 全教員によるオフィスアワーを実施した。            オ. 「学生意見箱」により、学生からの意見・要望収集を行った。投書された意見に対しては学生課掲示板に回答を掲示した。</p>																																		
<p>(2)経済的支援</p> <p>※外国人留学生については 3. 留学生支援において報告。</p>	<p>①経済的理由により修学困難な学生の授業料を軽減した。            ②人物・学業成績優秀な学生の授業料を軽減した。            ③スポーツ・文化活動で活躍する学生の授業料を軽減した。</p> <p>【表】学年別学費軽減者数 <span style="float:right">(単位:人)</span></p> <table border="1" data-bbox="555 1503 1414 1984"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>1 年生</th> <th>2 年生</th> <th>3 年生</th> <th>4 年生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">①経済的理由</td> <td>授業料半額減免</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>授業料全額免除 (4 年間)</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">②学業成績優秀者</td> <td>授業料半額減免</td> <td>9</td> <td>8</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>授業料全額免除 (4 年間)</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">③スポーツ・文化活動</td> <td>授業料半額減免</td> <td>8</td> <td>12</td> <td>11</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table> <p>注：③の授業料全額免除特待制度は、平成 23 年度から実施。</p>			1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	①経済的理由	授業料半額減免	2	3	5	1	授業料全額免除 (4 年間)	5	1	2	0	②学業成績優秀者	授業料半額減免	9	8	4	5	授業料全額免除 (4 年間)	2	3	—	—	③スポーツ・文化活動	授業料半額減免	8	12	11	9
		1 年生	2 年生	3 年生	4 年生																														
①経済的理由	授業料半額減免	2	3	5	1																														
	授業料全額免除 (4 年間)	5	1	2	0																														
②学業成績優秀者	授業料半額減免	9	8	4	5																														
	授業料全額免除 (4 年間)	2	3	—	—																														
③スポーツ・文化活動	授業料半額減免	8	12	11	9																														

	<p>④大学契約借上げアパートを学生に安価で提供し、経済的負担軽減を行った。</p>
<p>(3)学外団体との連携</p>	<p>①スポーツ競技団体や文化団体との連携支援 水球部、卓球部、ライフセービング部、バスケットボール部、伝統芸能文化部、写真部、茶道部が、地域の団体や高校等と合同練習や活動を実施した。</p> <p>②地域のボランティア活動等諸団体との連携支援 各種団体からの学生に対するボランティア活動の依頼に対し、学生課が窓口となり、ポスター掲示等学生周知を行った。学友会・学生行事実行委員会、青年赤十字奉仕団、水球部・卓球部などが柏崎地域でのボランティア行事に参加した。</p> <p>③父母の会事務局としての支援、校友会との連携 ア. 父母の会総会時に、学生の修学状況等を保護者に報告した。また、就職情報企業から講師を招き、保護者に対し就職に関する情報提供を行った。総会后、保護者と教職員の懇親会を開催した。その他、父母の会各支部総会に教員を派遣した。 イ. 校友会総会、支部総会等で連携協力した。</p> <p>④新潟工科大学と本学学生との交流支援 両大学の学園祭に、お互いの学友会メンバーを招いた。また、恒例となっている市民有志による新入生合同歓迎会では、両大学の学友会メンバーがスタッフとなり、新入生に対する市内マップの作製や当日のアトラクションの企画・運営、市内バスツアーのガイドを担当した。</p>
<p>(4)就職支援</p>	<p>①平成24年度卒業生の就職率 就職希望率73.7%（対前年度比2.7ポイント好転）において、就職率98.6%（対前年度比4.7ポイント好転）であった。</p> <p>②早期の職業適性把握と職業観の育成 1～2年生に対し就職ガイダンス時に就職面談の利用を積極的に促した。また、平成25年度カリキュラムよりキャリアデザイン科目を6単位から12単位に拡充し就職活動期までの切れ目の無いキャリア教育体制を構築した。</p> <p>③卒業生の在職、転・退職情報の収集 企業への求人依頼送付時に約1500社に対し、在籍状況調査アンケートを実施した。</p> <p>④保護者向け就職セミナーの導入 新入生の保護者向け就職ガイダンスや、「父母の会」総会等を利用した就職講演や学生の就職活動体験談発表を実施し、保護者の就職活動への理解を促した。また、消極的な就活生に対しては三者面談を行い、保護者と連携した個別指導を行った。</p> <p>⑤本学求人システム利用の拡大 3年生に対しプレゼンテーションルームのパソコンを利用し、本学求人システムの登録ガイダンスを2回開催した。また企業に対しては求人依頼文書送付時に求人票受付システムの説明書を同封し、利用の拡大を呼びかけた。</p>

	<p>⑥DVD就職講座の実施          キャリアナビルームを利用し、就職に関するDVD(大学生活の過ごし方、業界・職種研究、モチベーション等)講座を、希望者に対し恒常的に実施した。</p>
<p>(5)資格検定等支援          ~学生の付加価値づくり~</p>	<p>各種検定・対策講座について以下のとおり実施した。</p> <p>【対策講座の実施】</p> <p>①日商簿記検定3級講座 全3回(延29コマ)実施 …受講者数延20名          ②経営学検定対策講座 全2回(延12コマ)実施 …受講者延23名          ③ERE経済学検定対策講座 全1回(8コマ) …受講者1名          ④MOS受験対策講座(スペシャリスト)全2回(延20コマ) 受講者数延17名          ⑤TOEIC受験対策講座 全2回(延18コマ) …受講者数延18名          ⑥公務員試験受験対策講座 全1回(25コマ) …受講者数30名          ⑦訪問介護員2級講座 全1回(140時間) …受講者数13名</p> <p>【検定試験の学内実施】※( )数字は学内受験者数</p> <p>①漢字能力検定 全2回実施 …受験者数延 21(21)名          ②ハングル能力検定 全2回 …受験者数延 31(6)名          ③中国語検定 全3回 …受験者数延 112(6)名          ④経営学検定 全2回 …受験者数延 35(35)名          ⑤ERE経済学検定 全2回 …受験者数延 3(3)名</p>

#### 4. 留学生支援

事業項目	平成24年度実施内容
<p>(1)学習・生活支援</p>	<p>①学生チューターによる生活・学習指導          チューターのミーティングを週1回実施し、留学生との交流活動の計画、留学生のための生活指導を実施した。          また、日本語能力不足の留学生に対し、日本語補習授業を実施した。          春学期：4月16日～6月29日、2クラス週5コマ、4人受講          秋学期：9月26日～12月20日、3クラス週5コマ、5人受講</p> <p>②教職員による生活・学習相談          ア. 1年次の「基礎ゼミナール」、2年次の「プレゼミナール」において、担任教員とCLA(キャンパスライフアドバイザー)が留学生の個別面談を実施する中で、生活面と学習面の指導を行った。また、ゼミナール担当教員、学生課職員等が留学生の相談窓口となって、個別相談に応じた。          イ. 留学生寮(大学借上げアパートを含む)に入居している学生には、寮毎に集会を開き、ゴミの分別や寮の規則に関して周知した。</p> <p>③留学生ガイダンスでの生活指導          年2回、学期始めに全留学生を対象とする留学生ガイダンスを開いた。また、1月には卒業予定者へのガイダンスを実施し生活上の注意や在留資格に関する指導を行った。</p> <p>④日本語能力検定試験受験の奨励          年2回行われる日本語能力検定試験の受験を希望する留学生に対し、大学で受験申込を代行した。また、N1、N2に合格した本学留学生の以後の学期の学費をそれぞれ減免した。</p>

	<p>春学期：33人受験、N1検定4年1人、交換留学生等5人合格。 N2検定3年1人、2年6人、1年1人合格。</p> <p>秋学期：37名受験、N1検定3年1人、交換留学生等2人合格。 N2検定4年1人、3年1人、2年1人、 1年1人合格。</p>
(2)経済的支援	<p>①私費外国人留学生授業料減免を実施 留年者を除く私費外国人留学生で、減免申請の許可が認められた留学生の授業料を40%減免した。ただし、著しく成績不振の留学生4人は、秋学期のみ授業料20%減免とした。</p> <p>②私費外国人留学生への学習支援金の給付 2、3年生で、他の奨学金を受給していない留学生を対象とし、申請のあった留学生のうち成績優秀者（評価係数により審査）上位15人に対して、学習支援金として各80,000円を給付した。</p> <p>③新入学留学生全員に住居費補助及び通学費等補助の給付 日本での学習及び生活に円滑に移行できるようにするため、1年生全員に住居費補助（月額10,000円、年間120,000円）、通学費等補助（30,000円）を給付した。</p> <p>④留学生向け宿舎の確保 留学生寮（女子寮1棟、男女寮2棟）の他に、アパート（日本人学生、留学生とも入居可）2棟13部屋を大学が借上げ、家賃の一部を大学が負担し、宿舎を確保した。</p> <p>⑤資格外活動の法令順守指導およびアルバイト求人確保 ア．資格外活動について法令順守指導をガイダンスや掲示にて行った。 イ．留学生の日本語能力に応じたアルバイト求人確保に努めた。</p>

(3)各種交流支援

①日本人学生と留学生との交流行事

新入留学生歓迎会（観桜会）、ソフトバレーボール大会、ボウリング大会、クリスマスパーティ、県内研修旅行（白根大凧合戦観戦ツアー・岩塚製菓と朱鷺メッセおよび新潟市内研修）を開催し、日本人学生と留学生との交流の機会とした。

②地域社会及び地域の小中学校での国際交流

小中学校における総合学習授業や文化活動団体の行事などに積極的に参加し、母国の文化紹介や相互交流を行った。

【表】地域における国際交流の実績

期日	派遣先	内容	人数
7月1日	柏崎中通地区行政振興会	町内敬老会への留学生馬頭琴演奏	1人
7月1日	高田コミセン	留学生との交流会	7人
7月1日	長岡市市民部国際交流課	国際人育成事業に係る留学生講師登録	4人
7月4日	㈱ブルボン	留学生工場見学	10人
7月13日	峨眉山市訪日団	歓迎会で訪日団と交流	2人
7月25日	江蘇省訪日団歓迎会	日中国交正常化40周年記念歓迎会通訳	5人
9月12～13日	北陸信越運輸局	観光調査による国際交流への派遣	2人
9月25日	西山中学校3年生	国際交流学習会	2人
10月14日	MOA美術館	柏崎児童作品展 展示ボランティア	3人
12月9日	高田コミセン	芸能大会	1人
11月23日	刈羽小学校全学年	国際セミナー	4人
12月22日	柏崎地域国際化協会	留学生フォーラム イン柏崎	12人
2月14日	柏崎第一中学校	1年生に対し、国際理解講座の講師	2人

## 5. 学生募集及び入学試験

事業項目	平成 24 年度実施内容
(1)学生募集広報の見直し	<p>①オープンキャンパスの開催回数増 参加者増を目指し、平成 23 年は 8 月 2 回、9 月 1 回の開催だったが、平成 24 年は 7 月中旬にも開催し、計 4 回開催とした。その結果、高校生の参加者数は前年を上回った。また、学園祭開催期間中に初めて進学相談コーナーを設け、来場者の入学に繋げた。</p> <p>②特待制度・学費軽減制度の周知 ア. 多様な特待制度や学費軽減制度による経済的負担の軽減について周知を行った。12 月には経済的支援に関する説明会に参加し、本学の各種支援制度の周知を図るとともに、高校の担当教員と情報交換を行った。 イ. 特待制度が受験理由との調査結果もあり、学力の高い受験生にとっては出願に繋がる制度である。 ウ. 学費軽減制度は経済的に厳しい世帯にとっては非常に有益であり、欠かせない制度となっている。 エ. 東日本大震災被災者に対する学費免除（4 年間）に該当する者が入学手続きを行った。</p> <p>③進学広報媒体の見直し 企画内容、費用対効果等により、広報媒体の見直し変更を行った。 ア. 進学情報業者は、利用者の多い業者の企画に重点を置いた。 イ. 高校生に聴取者の多い FM 番組にて本学の CM を 1 年間流し、知名度の向上を図った。 ウ. リターゲティング広告を導入することによって、本学 HP 訪問者に対する再アプローチを強化した。 （参考）リターゲティング広告とは、新潟産業大学のホームページを訪れたユーザーが、その後閲覧するサイトに再度、新潟産業大学の広告を表示させる広告手法。 エ. 受験生の保護者向けリーフレットを作成し、資料請求者の保護者に送付した。 オ. 資料無料頒布会の企画に参画し、本学の周知に努めた。 カ. 本学の情報が記載されたルーズリーフ・セットを、県内高校の約半数の進路指導室前に設置し、生徒が自由に持ち帰れるようにした。設置したルーズリーフは、ほぼ全数利用された。</p> <p>④高校訪問の強化 ア. 例年より早く 4 月中旬から県内の出願実績校を中心に高校訪問を行った。今年度から職員に加えて教員も同行し、本学の教育内容等の周知に努めた。合同進学説明会においても教職員 2 人体制による説明を実施した。 イ. 入試広報関連以外の教職員も積極的に高校訪問を行い、143 回の高校訪問を実施した。 ウ. 附属高校とは年間を通じたプログラムで連携を深めるとともに、柏崎総合高校においても出張講義を多数実施した。県内高校における出張講義の実施回数は前年度の 30 回を上回る 40 回となった。 エ. 強化指定部の顧問は、高校の運動部顧問や各地で開催される全国大会等を訪問し、学生募集に努めた。しかし、年度途中でバスケットボール部担当者が退職したことも影響し、スポーツ推薦入試受験</p>

	<p>者総数は前年を下回る結果となった。</p> <p>オ. 秋以降、新潟県外の元高校教員に募集広報業務を委嘱し、隣接県での恒常的な広報活動を開始した。</p> <p>⑤社会人学生の獲得 学費軽減額の拡大や学びやすい体制の整備、入試方法の改善により、前年を4人上回る11人の社会人が入学した。</p>
(2)特待生入試制度の見直し・改善	<p>特待制度の基準変更</p> <p>①指定校推薦入試において、2年間授業料減免に加えて初年度半額減免を導入した結果、同制度の適用を希望する生徒の入学に繋がった。</p> <p>②一般入試、センター利用入試に授業料の2年間半額減免を追加した結果、受験者数は前年度を下回ったが、同特待生の入学手続き率は向上した。</p> <p>③AO入試において、水球部以外の強化指定部入部希望者は特待制度を適用できることとしたが、本年度は利用者がいなかった。</p> <p>④強化指定部において、特例として授業料の4年間全額免除を行った結果、有力選手の獲得に繋がった。</p>
(3)外国人留学生募集	<p>①入学金の減免 従来、海外指定校のみ入学金を減免していたが、留学生国内入試合格者にも同様に適用することとし、留学生の経済的負担を軽減したが、この変更による志願者増、入学者増はなかった。</p> <p>②新たな留学生受け入れ先の開拓 ア. 内モンゴル地区において日本語教育を実施し、本学への留学を推奨するため、本学から日本語教師とアシスタント（本学を卒業した留学生）を派遣し、現地高校で日本語授業を開始した。しかし、日中関係悪化により、中国当局より帰国命令があり、教師は帰国を余儀なくされた。アシスタント一人が残り、現在も日本語授業を継続している。四川省への派遣も同時期計画したが頓挫した。 イ. 韓国の入試アドバイザーからは、日韓関係悪化の影響を懸念する保護者が多く、現状では留学させたくないとの報告があった。 ウ. インドネシアで入学試験を実施し、留学希望者が多いことが分かった。査証申請のための書類がそろわず、4月入学には間に合わなかったが、新たな募集地域を開拓することができた。 エ. 海外の日本語能力試験会場や、東日本の主要日本語学校への資料送付を行った。従来は日本語学校教員への説明のみであったが、国内の留学生向け説明会に初めて参加し、直接留学生へのアプローチを行なった。しかし、入学者は前年度を下回る結果となった。</p>
(4)入試方法の見直し・改善	<p>①AO入試の変更 3期制から4期制に変更するとともに、第1期の日程を早めた結果、早期合格を希望する受験生の出願エントリーに繋がった。また、AO入試希望者の便宜を図り、オープンキャンパス時に初回面談を可能としたが、利用者は1名であった。最終的には、前年度より6名多い17名が入学した。</p> <p>②一般入試後期日程試験日を後半に変更し、特待制度対応試験としたことにより、前年度を上回る出願・入学となった。</p> <p>③指定校推薦の評定平均値を下方変更したが、下げ幅範囲の入学者は1名であった。</p>

## 6. 地域貢献・生涯学習

事業項目	平成 24 年度実施内容																																																																																																																																																																																																																																				
(1)生涯学習事業	<p>①聴講講座の実施</p> <p>正規授業を「聴講講座」として地域の人々に公開した。また昼間の授業に加え、時間がとれない社会人学生の受講しやすさに配慮し、平日夜間や土曜日にも行っている授業を聴講講座として公開した。</p> <p>春学期は 48 講座を公開し 20 講座に聴講があった。秋学期は 38 講座を公開し 21 講座に聴講があった。</p> <p>【聴講講座（春）】 ※○印の付いた番号は平日夜間・土曜日講座。</p> <table border="1" data-bbox="539 584 1436 1429"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>講座名</th> <th>講師名</th> <th>受講者数</th> <th>期間</th> <th>回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>男女共同参画社会論</td><td>梅澤 精</td><td>1</td><td>4/13～7/27</td><td>15</td></tr> <tr><td>2</td><td>中国語 I A</td><td>詹 秀娟</td><td>3</td><td>4/10～7/24</td><td>15</td></tr> <tr><td>3</td><td>東洋史</td><td>金 光林</td><td>2</td><td>4/9～7/23</td><td>15</td></tr> <tr><td>4</td><td>日本社会論</td><td>梅澤 精</td><td>2</td><td>4/12～7/26</td><td>15</td></tr> <tr><td>5</td><td>財政学</td><td>齋藤 忠雄</td><td>1</td><td>4/10～7/24</td><td>15</td></tr> <tr><td>⑥</td><td>映画史 I</td><td>梅比良 眞史</td><td>2</td><td>4/13～7/27</td><td>15</td></tr> <tr><td>⑦</td><td>韓国語と韓国文化への理解 I</td><td>金 光林</td><td>3</td><td>4/10～7/24</td><td>15</td></tr> <tr><td>8</td><td>ヨーロッパ文化史</td><td>梅比良 眞史</td><td>1</td><td>4/10～7/24</td><td>15</td></tr> <tr><td>⑨</td><td>韓国語入門</td><td>蓮池 薫</td><td>4</td><td>4/9～7/23</td><td>15</td></tr> <tr><td>10</td><td>流通システム論</td><td>菊地 慎二</td><td>1</td><td>4/12～7/26</td><td>15</td></tr> <tr><td>11</td><td>自然地理学 I</td><td>佐藤 芳徳</td><td>2</td><td>4/12～7/26</td><td>15</td></tr> <tr><td>⑫</td><td>ビジネス&amp;生活英語 I</td><td>星野 三喜夫</td><td>8</td><td>4/12～7/26</td><td>15</td></tr> <tr><td>⑬</td><td>日本の芸術</td><td>片岡 直樹</td><td>4</td><td>4/12～7/26</td><td>14</td></tr> <tr><td>14</td><td>韓国語演習 I</td><td>蓮池 薫</td><td>1</td><td>4/12～7/26</td><td>15</td></tr> <tr><td>15</td><td>中国語会話 A</td><td>詹 秀娟</td><td>3</td><td>4/12～7/26</td><td>15</td></tr> <tr><td>16</td><td>日本の芸術</td><td>片岡 直樹</td><td>3</td><td>4/13～7/27</td><td>14</td></tr> <tr><td>17</td><td>韓国語 I A</td><td>金 光林</td><td>3</td><td>4/10～7/24</td><td>15</td></tr> <tr><td>18</td><td>中国語演習 I</td><td>詹 秀娟</td><td>2</td><td>4/10～7/24</td><td>15</td></tr> <tr><td>19</td><td>韓国語 II A</td><td>蓮池 薫</td><td>3</td><td>4/11～7/25</td><td>15</td></tr> <tr><td>⑳</td><td>スポーツ実習 (登山・ウォーキング)</td><td>小黒 裕二</td><td>1</td><td>4/28, 5/26, 6/23, 7/7</td><td>4</td></tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>受講者数計</td> <td>50</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【聴講講座（秋）】 ※○印の付いた番号は平日夜間・土曜日講座。</p> <table border="1" data-bbox="539 1496 1436 2051"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>講座名</th> <th>講師名</th> <th>受講者数</th> <th>期間</th> <th>回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>民法 B</td><td>山崎 修</td><td>1</td><td>9/24～1/21</td><td>15</td></tr> <tr><td>2</td><td>東アジア文化交流史</td><td>金 光林</td><td>1</td><td>9/24～1/21</td><td>15</td></tr> <tr><td>③</td><td>韓国語入門 II</td><td>蓮池 薫</td><td>8</td><td>9/24～1/21</td><td>15</td></tr> <tr><td>4</td><td>アジアの観光資源</td><td>金 光林</td><td>2</td><td>9/25～1/22</td><td>15</td></tr> <tr><td>5</td><td>農業関連産業論</td><td>片桐 民生</td><td>2</td><td>9/25～1/22</td><td>15</td></tr> <tr><td>6</td><td>韓国語 I B</td><td>金 光林</td><td>2</td><td>9/25～1/22</td><td>15</td></tr> <tr><td>⑦</td><td>韓国語と韓国文化への理解 II</td><td>金 光林</td><td>2</td><td>9/25～1/22</td><td>15</td></tr> <tr><td>8</td><td>中国語 I B</td><td>詹 秀娟</td><td>1</td><td>9/25～1/22</td><td>15</td></tr> <tr><td>9</td><td>中国語演習 II</td><td>詹 秀娟</td><td>2</td><td>9/25～1/22</td><td>15</td></tr> <tr><td>10</td><td>地域振興論</td><td>渡邊 孝一郎</td><td>2</td><td>9/27～1/24</td><td>15</td></tr> <tr><td>11</td><td>韓国語 II B</td><td>蓮池 薫</td><td>4</td><td>9/26～1/23</td><td>15</td></tr> <tr><td>12</td><td>資源経済論</td><td>阿部 雅明</td><td>1</td><td>9/26～1/23</td><td>15</td></tr> <tr><td>13</td><td>中国語会話 B</td><td>詹 秀娟</td><td>2</td><td>9/27～1/24</td><td>15</td></tr> <tr><td>14</td><td>自然地理学 II</td><td>佐藤 芳徳</td><td>1</td><td>9/27～1/24</td><td>15</td></tr> <tr><td>⑮</td><td>映画史 II</td><td>梅比良 眞史</td><td>2</td><td>9/27～1/24</td><td>15</td></tr> </tbody> </table>	No.	講座名	講師名	受講者数	期間	回数	1	男女共同参画社会論	梅澤 精	1	4/13～7/27	15	2	中国語 I A	詹 秀娟	3	4/10～7/24	15	3	東洋史	金 光林	2	4/9～7/23	15	4	日本社会論	梅澤 精	2	4/12～7/26	15	5	財政学	齋藤 忠雄	1	4/10～7/24	15	⑥	映画史 I	梅比良 眞史	2	4/13～7/27	15	⑦	韓国語と韓国文化への理解 I	金 光林	3	4/10～7/24	15	8	ヨーロッパ文化史	梅比良 眞史	1	4/10～7/24	15	⑨	韓国語入門	蓮池 薫	4	4/9～7/23	15	10	流通システム論	菊地 慎二	1	4/12～7/26	15	11	自然地理学 I	佐藤 芳徳	2	4/12～7/26	15	⑫	ビジネス&生活英語 I	星野 三喜夫	8	4/12～7/26	15	⑬	日本の芸術	片岡 直樹	4	4/12～7/26	14	14	韓国語演習 I	蓮池 薫	1	4/12～7/26	15	15	中国語会話 A	詹 秀娟	3	4/12～7/26	15	16	日本の芸術	片岡 直樹	3	4/13～7/27	14	17	韓国語 I A	金 光林	3	4/10～7/24	15	18	中国語演習 I	詹 秀娟	2	4/10～7/24	15	19	韓国語 II A	蓮池 薫	3	4/11～7/25	15	⑳	スポーツ実習 (登山・ウォーキング)	小黒 裕二	1	4/28, 5/26, 6/23, 7/7	4			受講者数計	50			No.	講座名	講師名	受講者数	期間	回数	1	民法 B	山崎 修	1	9/24～1/21	15	2	東アジア文化交流史	金 光林	1	9/24～1/21	15	③	韓国語入門 II	蓮池 薫	8	9/24～1/21	15	4	アジアの観光資源	金 光林	2	9/25～1/22	15	5	農業関連産業論	片桐 民生	2	9/25～1/22	15	6	韓国語 I B	金 光林	2	9/25～1/22	15	⑦	韓国語と韓国文化への理解 II	金 光林	2	9/25～1/22	15	8	中国語 I B	詹 秀娟	1	9/25～1/22	15	9	中国語演習 II	詹 秀娟	2	9/25～1/22	15	10	地域振興論	渡邊 孝一郎	2	9/27～1/24	15	11	韓国語 II B	蓮池 薫	4	9/26～1/23	15	12	資源経済論	阿部 雅明	1	9/26～1/23	15	13	中国語会話 B	詹 秀娟	2	9/27～1/24	15	14	自然地理学 II	佐藤 芳徳	1	9/27～1/24	15	⑮	映画史 II	梅比良 眞史	2	9/27～1/24	15
No.	講座名	講師名	受講者数	期間	回数																																																																																																																																																																																																																																
1	男女共同参画社会論	梅澤 精	1	4/13～7/27	15																																																																																																																																																																																																																																
2	中国語 I A	詹 秀娟	3	4/10～7/24	15																																																																																																																																																																																																																																
3	東洋史	金 光林	2	4/9～7/23	15																																																																																																																																																																																																																																
4	日本社会論	梅澤 精	2	4/12～7/26	15																																																																																																																																																																																																																																
5	財政学	齋藤 忠雄	1	4/10～7/24	15																																																																																																																																																																																																																																
⑥	映画史 I	梅比良 眞史	2	4/13～7/27	15																																																																																																																																																																																																																																
⑦	韓国語と韓国文化への理解 I	金 光林	3	4/10～7/24	15																																																																																																																																																																																																																																
8	ヨーロッパ文化史	梅比良 眞史	1	4/10～7/24	15																																																																																																																																																																																																																																
⑨	韓国語入門	蓮池 薫	4	4/9～7/23	15																																																																																																																																																																																																																																
10	流通システム論	菊地 慎二	1	4/12～7/26	15																																																																																																																																																																																																																																
11	自然地理学 I	佐藤 芳徳	2	4/12～7/26	15																																																																																																																																																																																																																																
⑫	ビジネス&生活英語 I	星野 三喜夫	8	4/12～7/26	15																																																																																																																																																																																																																																
⑬	日本の芸術	片岡 直樹	4	4/12～7/26	14																																																																																																																																																																																																																																
14	韓国語演習 I	蓮池 薫	1	4/12～7/26	15																																																																																																																																																																																																																																
15	中国語会話 A	詹 秀娟	3	4/12～7/26	15																																																																																																																																																																																																																																
16	日本の芸術	片岡 直樹	3	4/13～7/27	14																																																																																																																																																																																																																																
17	韓国語 I A	金 光林	3	4/10～7/24	15																																																																																																																																																																																																																																
18	中国語演習 I	詹 秀娟	2	4/10～7/24	15																																																																																																																																																																																																																																
19	韓国語 II A	蓮池 薫	3	4/11～7/25	15																																																																																																																																																																																																																																
⑳	スポーツ実習 (登山・ウォーキング)	小黒 裕二	1	4/28, 5/26, 6/23, 7/7	4																																																																																																																																																																																																																																
		受講者数計	50																																																																																																																																																																																																																																		
No.	講座名	講師名	受講者数	期間	回数																																																																																																																																																																																																																																
1	民法 B	山崎 修	1	9/24～1/21	15																																																																																																																																																																																																																																
2	東アジア文化交流史	金 光林	1	9/24～1/21	15																																																																																																																																																																																																																																
③	韓国語入門 II	蓮池 薫	8	9/24～1/21	15																																																																																																																																																																																																																																
4	アジアの観光資源	金 光林	2	9/25～1/22	15																																																																																																																																																																																																																																
5	農業関連産業論	片桐 民生	2	9/25～1/22	15																																																																																																																																																																																																																																
6	韓国語 I B	金 光林	2	9/25～1/22	15																																																																																																																																																																																																																																
⑦	韓国語と韓国文化への理解 II	金 光林	2	9/25～1/22	15																																																																																																																																																																																																																																
8	中国語 I B	詹 秀娟	1	9/25～1/22	15																																																																																																																																																																																																																																
9	中国語演習 II	詹 秀娟	2	9/25～1/22	15																																																																																																																																																																																																																																
10	地域振興論	渡邊 孝一郎	2	9/27～1/24	15																																																																																																																																																																																																																																
11	韓国語 II B	蓮池 薫	4	9/26～1/23	15																																																																																																																																																																																																																																
12	資源経済論	阿部 雅明	1	9/26～1/23	15																																																																																																																																																																																																																																
13	中国語会話 B	詹 秀娟	2	9/27～1/24	15																																																																																																																																																																																																																																
14	自然地理学 II	佐藤 芳徳	1	9/27～1/24	15																																																																																																																																																																																																																																
⑮	映画史 II	梅比良 眞史	2	9/27～1/24	15																																																																																																																																																																																																																																

⑮	ビジネス&生活英語Ⅱ	星野 三喜夫	7	9/27～1/24	15
17	東洋の芸術	片岡 直樹	3	9/21～1/25	14
18	サブカルチャー論	梅比良 眞史	1	9/21～1/25	15
⑲	東洋の芸術	片岡 直樹	3	9/21～1/25	14
⑳	事例で学ぶマーケティング論Ⅱ	渡邊 孝一郎	3	9/21～1/25	15
21	日本の伝統芸能	三井田 忠明	2	9/21～1/25	15
		受講者数計	52		

## ②地域との連携講座等の実施

柏崎市近隣地域との連携講座の実施や、柏崎市主催の公開講座「かしわざき市民大学」「アルフォーレ文化塾」への講師派遣等を行った。その他、上越市ケーブルビジョン（JCV）や刈羽村ケーブルテレビ（ミルフォ）の公開講座番組への講師派遣等も行った。

その他、新潟市内で開催された新潟市民大学（コンソーシアム連携講座）に阿部雅明准教授を、新潟県生涯学習連携講座に片岡直樹教授を講師派遣した。

### 【公開講座（上越市で実施：上越学びの交流館 13：30～15：00）】

No.	講座名	講師名	受講者数	期間	回数
1	映画にみる水の都「ヴェネツィア」の風景	梅比良 眞史	13	5/26, 6/16, 7/21	3
2	日本を巡る朝鮮半島・ロシア・中国情勢	蓮池 薫 嵐田 浩吉 詹 秀娟	12	6/23, 30, 7/7	3
3	日記・古記録資料にみる日本史	小林 健彦	12	7/7, 14, 21	3
		受講者数計	37		

### 【公開講座（柏崎市で実施）】

No.	講座名	講師名	受講者数	期間	回数
1	環境に優しい再生可能エネルギーの話	藤井 信行	7	9/14, 21, 28	3
2	理解しよう、カラー画像の原理	古川 泰男	3	11/3, 4	2
		受講者数計	10		

### 【上越市ケーブルビジョン、刈羽村ケーブルテレビ、かしわざき市民大学、アルフォーレ文化塾等連携講座】

No.	講座名	講師名	受講者数	期間	回数
1	日本美術史講座（かしわざき市民大学）	片岡 直樹	56	6/22, 29, 7/6, 13	4
2	わたしたちの生活とマーケティング（かしわざき市民大学）	渡邊 孝一郎	12	6/5, 12, 19, 26	4
3	現代アメリカ事情（かしわざき市民大学）	星野 三喜夫	11	6/18, 25, 7/2, 9	4
4	かしわざきを知る（かしわざき市民大学）	片岡 直樹 （他）	45	10/18, 25, 27	3
5	私たちと柏崎 ～スポーツにかける思いから～（かしわざき市民大学）	青柳 勸 （他）	21	10/30	1
6	仏像の歴史・種類①（上越ケーブルビジョン公開番組）	片岡 直樹	80	5/10	2
7	仏像の種類②・③	片岡 直樹	80	5/17	2

	(上越ケーブルビジョン公開番組)				
8	仏像の見方 (刈羽村ケーブルテレビ公開番組)	片岡 直樹	—		4
9	韓流文化の考察 (刈羽村ケーブルテレビ公開番組)	伊藤 真美	—		3
10	日韓の文字の成り立ちと違い (刈羽村ケーブルテレビ公開番組)	蓮池 薫	—		1
11	資源経済論 (刈羽村ケーブルテレビ公開番組)	阿部 雅明	—		2
12	燃料電池の仕組みと実験 (刈羽村ケーブルテレビ公開番組)	アブトゲニ アブトレミ	—		4
13	日本企業の変遷 (刈羽村ケーブルテレビ公開番組)	川本 真哉	—		4
14	肉体改造入門 (刈羽村ケーブルテレビ公開番組)	青柳 勸	—		3
15	あなたの日本語は間違っていますか (アルフォーレ文化塾日本語)	北原 保雄	90	12/16	1
16	「問題な日本語」が辞書に載るまで (アルフォーレ文化塾日本語)	北原 保雄	80	(H23)01/13	1
17	敬語の正しい使い方 (アルフォーレ文化塾日本語)	北原 保雄	80	(H23)03/20	1
		受講者数計	555		

### ③資格取得支援講座の公開

本学学生の資格取得を目的とする各種講座のうち、「TOEIC 受験対策支援講座」を春と秋の2回、学生以外も受講できるよう一般公開した。

No.	講座名	講師名	受講者数	期間	回数
1	「TOEIC 受験対策支援講座」Ⅰ	星野 三喜夫	7	6/4～7/23	8
2	「TOEIC 受験対策支援講座」Ⅱ	星野 三喜夫	4	11/5～12/24	8
		受講者数計	11		

### ③友の会会員数の拡大

柏崎・刈羽以外の地域に対し、聴講講座でのチラシ配布・ダイレクトメール等により「友の会(新潟産業大学生涯学習センター支援組織)」会員の拡大を図った。平成25年3月末時点で会員数は35人。

平成25年3月15日に大学キャンパスにて毎年恒例の『友の会懇親会』を開催した。今年度は初めての試みとして学内ツアーと称する施設案内を行った。友の会会員の施設利用の増進に繋がることを期待する。

### (2)青少年国際経済人育成事業(新潟県ロータリークラブ寄付金原資)

#### ①詩の朗読会「ことばのひびきIX」の実施

「ことばのひびきIX」を平成25年2月11日(月・祝)に柏崎エネルギーホールで開催し、地元高校生18人、本学学生8人(内留学生3人)が詩の朗読発表を行った。朗読された詩は、日本語以外に英語・中国語・チベット語・モンゴル語、韓国語の6言語に及んだ。当日は出演者と入場者を合わせて約100人の来場者があった。また、上記

朗読会に向けて、平成 25 年 2 月 2 日（土）に柏崎アルフォーレにて、出演者による事前リハーサル（発声練習含む）を実施した。アルフォーレは、開設間もなくであったため、参加者による見学会も併せて行った。

② 「地球くらぶ」（国際教養体験講座）イベントを開催

地球くらぶとは、地元の児童クラブを訪問して小学生を対象に東アジアの言語や文化を紹介するイベントである。本年度は以下の 2 回開催した。

ア．半田第一児童クラブ

日時：平成 24 年 8 月 8 日（水）10：00～12：00

場所：半田児童クラブ 参加人数：20 人（児童）

内容：児童に留学生が韓国・モンゴル・中国の文化を紹介

イ．半田第二児童クラブ

日時：平成 24 年 8 月 8 日（水）13：00～15：00

場所：半田第 2 児童クラブ 参加人数：11 人（児童）

内容：児童に留学生が韓国・モンゴル・中国の文化を紹介

③ 「ふるさと自慢作文コンテスト」作文集翻訳

平成 21 年度 1,214 点、平成 22 年度 682 点の応募作品の中から優秀作品を選定し、韓国語・中国語・モンゴル語に翻訳した作文集を発行するための翻訳作業を昨年から継続して実施した。

④ 地域通貨事業

地域通貨事業とは、地域通貨をとおして、学生が「生きた経済」と地域振興との関わりを学ぶとともに、積極的に地域のボランティア活動に参加する動機づけとして行うものであり、本年度もこの事業に対し、地域通貨の印刷、地域通貨理解のためのチラシ印刷、および地域通貨引き当て分の補助を行った。

⑤ 海外・国内研修

青少年に国際人としての資質を涵養し、語学力やコミュニケーション能力を身につけさせるべく、海外・国内研修への参加学生数を増やすための事業であり、平成 24 年度は、国際文化研修（米国、韓国）及び日本文化研修（東京）を実施し、引率教員の旅費交通費補助や、国際文化研修参加学生 10 人（米国 7 人、韓国 3 人、各 5,000 円）への助成を行った。

⑥ 「ねぎっこ」のトーク&ライブの実施

経済人講演会の代わりに、売れない時期にいかに関心を持ちプロデュースしたかという視点で「ねぎっこ」のトーク&ライブを学生中心に学園祭にあわせて実施した。平成 24 年 11 月 3 日午後 6 時より体育館にて開催し、観客 200 人ほどであった。

⑦ 堀井真吾さんの朗読をとおした自己表現講座の実施

中学生・高校生・一般人の参加を可能として、朗読劇を体験する形での自己表現講座を開催した。平成 24 年 10 月 6 日、13 日、20 日、27 日、11 月 3 日に実施し、17 人が受講した。

<p>(3)『柏崎市・新潟産業大学・新潟工科大学連携協定』に基づく取り組み</p>	<p>①平成24年度 大学・地域連携推進業務委託 「柏崎中心市街地に対する地元住民の利用動向・意識調査」(渡邊助教) 「空き店舗活用事業」(新潟産業大学・新潟工科大学 共同受託)</p> <p>②柏崎市の各種委員会等への委員参加</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 柏崎市福祉有償運送運営協議会委員 (山崎一輝教授)</li> <li>2) 柏崎市行政改革推進委員会委員 (橋本次郎教授)</li> <li>3) 柏崎市公共事業再評価委員会委員 (橋本次郎教授)</li> <li>4) 柏崎市指定管理者選定委員会委員 (高橋成夫教授)</li> <li>5) 「明日のエネルギーを考えるシンポジウム」 実行委員 (阿部准教授)</li> <li>6) 柏崎市介護サービス事業者選定委員会委員 (星野三喜夫教授)</li> <li>7) 柏崎市第四次総合計画後期基本計画策定市民会議 (豊かな心と生きる力) 分科会委員 (広川俊男教授)</li> <li>8) 柏崎市入札監視委員会委員 (広川俊男教授)</li> <li>9) 柏崎市特別職報酬等審議会委員 (広川俊男教授)</li> <li>10) 柏崎市公益通報等審査委員会委員 (梅澤 精教授)</li> <li>11) 柏崎市情報公開・個人情報保護審査会委員 (梅澤 精教授)</li> <li>12) 柏崎市暴力団排除条例検討委員会委員 (梅澤 精教授)</li> <li>13) 柏崎市中越沖地震復興祈念事業実行委員会委員 (詹秀娟教授)</li> <li>14) 柏崎市職員倫理審査会委員 (嵐田浩吉教授)</li> <li>15) 柏崎市文化財保護審議会委員 (片岡直樹教授)</li> <li>16) 「かしわざき市民大学」企画運営委員 (片岡直樹教授)</li> <li>17) 柏崎市廃棄物減量等推進審議会委員 (アハメド シャハリアル准教授)</li> <li>18) 柏崎市バイオマス利活用推進協議会委員 (アブドゲニィ アブドレヒミ准教授)</li> <li>19) 柏崎市バイオマス利活用推進協議会委員 (小出瑞康准教授)</li> <li>20) 柏崎市奨学金貸付選考委員会委員 (小林健彦准教授)</li> <li>21) かしわざき健康みらいプロジェクト推進会委員 (平野実良講師)</li> <li>22) 柏崎市介護保険運営協議会委員 (柏崎市地域包括支援センター運営協議会委員兼務) (平野実良講師)</li> <li>23) 柏崎市介護サービス事業者選定委員会委員 (平野実良講師)</li> <li>24) 柏崎市環境審議会委員 (川本真哉講師)</li> <li>25) 柏崎市都市計画審議会委員 (渡邊孝一郎助教)</li> <li>26) 柏崎市元気なまちづくり事業補助金審査員 (渡邊孝一郎助教)</li> <li>27) 柏崎市都市スポーツ推進審議会委員 (青柳勸助手)</li> <li>28) 柏崎リーダー塾運営協議会委員 (金子和裕事務局長)</li> <li>29) 「かしわざき市民大学」企画運営委員 (押見操子教務課係長)</li> </ol>
<p>(4) 水球のまち柏崎への協力体制</p>	<p>①ブルボンウォーターポロクラブ事務局への大学施設の賃貸。 ②青柳経済学部助手が同クラブの選手兼任監督。</p>
<p>(5) 柏崎市への施設貸与</p>	<p>平成24年4月1日、新潟県柏崎市との間において、建物賃貸借契約書を締結(契約期間は平成34年3月31日まで)した。B号館校舎(鉄骨造陸屋根2階建:床面積1,448.39㎡)は、柏崎市立教育センターの庁舎として使用されている。</p>

## 7. 国際交流

事業項目	平成 24 年度実施内容
(1)地域における国際交流	<p>①小中学校等への外国人留学生派遣事業 小中学校における総合学習や地域各種団体の行事などへ留学生を派遣し、母国文化紹介や相互交流を行った。</p> <p>②柏崎地域国際化協会関係事業 協会主催の「語学教室(講師)」などに留学生を派遣し柏崎市民との交流や外国籍の市民へのサポート活動を行った。</p> <p>③学園祭で「私の主張 イン柏崎」を実施 留学生 13 名が柏崎市民に対し意見発表を行い、異文化理解への関心を高めた。</p>
(2)海外学術交流協定校との交流	<p>①短期留学生派遣 高麗大学校(韓国)へ1人が1年間留学した。また、ケアンズランゲージセンター(オーストラリア)へ1人が4週間、1人が3週間留学した。</p> <p>②短期留学生受入れ 黒龍江大学(中国)1人、哈爾濱師範大学(中国)1人、集美大学(中国)3人、合計5人の交換留学生を受け入れた。</p> <p>③短期セミナー生受入れ 春学期に8名(いずれも中国)、秋学期に6名(中国5・コスタリカ1)の短期セミナー生を受け入れた。</p>

## 8. 附属図書館

事業項目	平成 24 年度実施内容
(1)学習・教育・研究支援	<p>学生及び教員の利用満足度が向上するよう、資料陳列・展示・レファレンス(資料相談)・閲覧室の環境づくりを行った。また、電子コンテンツ・視聴覚資料・雑誌等の非図書資料を充実させた。</p> <p>学内掲示以外の図書紹介方法として、外部サイトを利用した、Web上での新刊等の図書紹介を行い、蔵書PRに努めた。</p>
(2)資料の整理・整備・	<p>開架図書の新陳代謝を図りながら、図書の整理を行った。また、昨年度に引き続き、教職課程や、郷土資料、資格取得、就職活動など、目的別に利用者を誘導できるよう、各コーナーを充実させた。</p> <p>複数冊ある蔵書を中心に、図書の除籍を行い、図書整理、書棚の狭溢化緩和に努めた。</p>
(3)資料の管理・保存	<p>延滞者管理の徹底と蔵書点検を行い、資料の所蔵確認や不明本の抽出を行った。蔵書点検については、数百冊の不明本を出していた時期もあるが、平成24年度の実施時は、管理徹底の効果から、13冊と少ない冊数となった。</p>
(4)学園祭参加	<p>昨年度に引き続き、古本市を実施した。学園祭において、除却した本や雑誌のリサイクル市を実施し、安価で専門書を提供する企画が学生・教職員・一般来場者に好評を得た。</p>

(5)開館サービス状況	①開館時間：月～金 9:00～19:00 長期休業期間 9:00～17:00 ②入館者数：28,403人(H23年度 28,801人) ※398人減 ③資料提供サービス ア. 貸出し冊数 : 2,961冊 (前年度から375冊増) イ. 貸出し延べ人数：1,259人 (前年度から54人増) [学生貸出数：721人]  ウ. 他大学との相互協力による資料依頼・提供件数								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>文献複写</th> <th>相互貸借</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>依頼</td> <td>68</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>受付</td> <td>50</td> <td>46</td> </tr> </tbody> </table>		文献複写	相互貸借	依頼	68	20	受付	50
	文献複写	相互貸借							
依頼	68	20							
受付	50	46							

## 9. 施設開放

事業項目	平成24年度実施内容
(1) 大学施設開放	<p>地域に根ざす開かれた大学として、本学施設の利用について、広く地域に呼びかけているが、平成24年度は、約6,500人の学外者が本学の施設を利用した。以下、施設別利用日数の集計結果。</p> <p><b>【開放施設】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①体育館 利用日数：延べ42日</li> <li>②グラウンド 利用日数：延べ34日</li> <li>③テニスコート 利用日数：延べ70日</li> <li>④講堂 2日</li> <li>⑤教室他 17日</li> <li>⑥駐車場 2日</li> </ul>

## 10. ファカルティ・ディベロップメント及びスタッフ・ディベロップメント

事業項目	平成 24 年度実施内容																								
(1) ファカルティ・ディベロップメント (FD) の推進	<p>①授業改善アンケートの実施 春学期と秋学期に 2 回実施した。アンケート評価の低い授業に対しては改善計画書の作成を義務付け、これを学内掲示した。また、高評価の授業については、「受講生が選ぶベスト授業」として、専任教員 6 人、非常勤教員 2 人の表彰を行った。</p> <p>②教員による相互授業見学 FD 委員会が見学授業を指定し、全教員に指定授業の見学と見学後の「見学レポート」提出を義務付けた。また、「見学レポート」に対しては、授業担当教員から回答を提出させた。加えて、全教員がこれらの情報を共有し、個々の授業改善に繋がられるように、この情報すべてを学内ホームページに掲載し全教員に開示した。</p> <p>③FD 講演会の開催 第 1 回 開催日：平成 24 年 7 月 25 日 15:00～16:30 講 師：FD 委員長 梅澤精教授 テーマ：「主体的な学びへ導く大学教育とは」 参加数：24 人 第 2 回 開催日：平成 25 年 1 月 23 日 16:30～18:00 講 師：公文教育研究会 テーマ：『生活数学』における学習効果測定報告と大学教育への貢献の検討 参加数：15 人</p>																								
(2) スタッフ・ディベロップメント (SD) の推進	<p>学校法人柏専学院教職員の研修に関する規程」に基づき、下表のとおり派遣研修を実施した。</p> <p>&lt;学外SD研修会&gt;</p> <table border="1" data-bbox="563 1429 1437 2056"> <thead> <tr> <th>実施日</th> <th>時間</th> <th>研修テーマ等</th> <th>場 所</th> <th>参加数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5月16日(水) 6月20日(水) 7月12日(水) 9月13日(水) 10月4日(木) 11月8日(木)</td> <td></td> <td>ベティン・メソッドリーダーシップ研修 テーマ：「未来を創るリーダーシップ」 ～いよいよ試される変化をリードするリーダーシップ～</td> <td>長岡商工会議所</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>9月12日(水)</td> <td>9:30～17:30</td> <td>新潟大学スキルアップセミナー (中堅コース) 研修内容：『プレゼンテーション』</td> <td rowspan="2">ときめいと</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>9月13日(木)</td> <td>9:30～17:30</td> <td>新潟大学スキルアップセミナー (リーダーコース) 研修内容：『課題解決』</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>11月18日(土)</td> <td>9:30～14:30</td> <td>「大学人サミットダー研修(ビジネスコーチング)」</td> <td>新潟大学</td> <td>2名</td> </tr> </tbody> </table>	実施日	時間	研修テーマ等	場 所	参加数	5月16日(水) 6月20日(水) 7月12日(水) 9月13日(水) 10月4日(木) 11月8日(木)		ベティン・メソッドリーダーシップ研修 テーマ：「未来を創るリーダーシップ」 ～いよいよ試される変化をリードするリーダーシップ～	長岡商工会議所	1名	9月12日(水)	9:30～17:30	新潟大学スキルアップセミナー (中堅コース) 研修内容：『プレゼンテーション』	ときめいと	1名	9月13日(木)	9:30～17:30	新潟大学スキルアップセミナー (リーダーコース) 研修内容：『課題解決』	1名	11月18日(土)	9:30～14:30	「大学人サミットダー研修(ビジネスコーチング)」	新潟大学	2名
実施日	時間	研修テーマ等	場 所	参加数																					
5月16日(水) 6月20日(水) 7月12日(水) 9月13日(水) 10月4日(木) 11月8日(木)		ベティン・メソッドリーダーシップ研修 テーマ：「未来を創るリーダーシップ」 ～いよいよ試される変化をリードするリーダーシップ～	長岡商工会議所	1名																					
9月12日(水)	9:30～17:30	新潟大学スキルアップセミナー (中堅コース) 研修内容：『プレゼンテーション』	ときめいと	1名																					
9月13日(木)	9:30～17:30	新潟大学スキルアップセミナー (リーダーコース) 研修内容：『課題解決』		1名																					
11月18日(土)	9:30～14:30	「大学人サミットダー研修(ビジネスコーチング)」	新潟大学	2名																					

## Ⅱ. 新潟産業大学 大学院 経済学研究科

### 1. 教育および研究指導の整備と質の確保にかかる事業

事業区分・項目	平成 24 年度実施内容
(1)教育課程の整備	①教育課程の編成の工夫 大学院の教育目標にある、「地域社会の指導的職業人や自治体職員などの養成」にそった実践的科目設置の検討を行った。
(2)研究指導体制の強化	複数教員指導体制の確立 指導教員に加え、学生の研究課題に関連する教員（副査）、修論作成技術指導に長けた他分野の教員も指導する体制を実施した。

### 2. 学習・研究支援環境の整備にかかる事業

事業項目	平成 24 年度実施内容
(1)基礎学力養成支援	全院生の経済学・経営学検定試験受験のために、受験料の支援を行った。受検対策模擬試験を年 2 回行った。
(2)院生指導室（院生コンピュータールーム）の見直し	3 台のパソコンはネット対応とし、自由に検索できるように、プリントアウトできるように配備した。スキャナー専用機も設置した。 解析ソフトの SPSS の基本ソフトを 2 台のパソコンにインストールし、 修論の充実に資するようにした。

### 3. 国際交流

事業項目	平成 24 年度実施内容
国際交流の基本方針の明確化	大学院が実施可能な国際交流について、検討した。学術協定の案を中国のある大学院に打診し、交渉中である。

### 4. ファカルティ・ディベロップメント

事業区分・項目	平成 24 年度実施内容
ファカルティ・ディベロップメント（FD）の推進	①大学院FD委員会の活動強化 FD活動をより組織的に推進することとした。 ②研究発表会の実施 FD活動の一環として、研究成果を大学院教員および学部教員に公表した。その内容を大学院FD委員会で評価し、研究科委員会構成員にフィードバックした。 ③授業改善アンケートの実施 春学期末及び秋学期末の定期試験実施前に授業改善アンケートを実施し、結果を大学院FD委員会および研究科委員会にかけ、討議した。院生と結果を共有した。また、学内 Web ページ上に結果を公開した。

## Ⅲ. 新潟産業大学附属高等学校

### 1. 平成24年度の「教育等の事業」の概要

前年度までの部活動での活躍や大学進学実績をさらに高めるために、今年度も「部活で燃えろ！進路で輝け！」をスローガンに掲げ、少子化に伴う適齢人口の減少や、教育の多様化、個性化に対応し、地域に信頼され、期待される新潟産業大学附属高等学校を目指すために、募集活動や広報活動で当校の特色・魅力や教育成果などを、地域に深く理解していただけるよう努力してきた。

### 2. 平成24年度実績

#### (1) 部活動実績（国際大会・全国大会レベルに挑戦）

- ①県高等学校総合体育大会に140名（昨年度121名）が出場し、19名（昨年度13名）が優勝を果たした。  
卓球部は、男子学校対抗戦、男子シングルス、女子学校対抗戦、女子ダブルスで優勝を果たした。
- ②北信越高等学校体育大会に44名（昨年度44名）が出場した。  
卓球部は、女子学校対抗戦3位、女子シングルス3位、女子ダブルス3位、男子学校対抗戦ベスト8、ダブルスでベスト8と実力を発揮した。  
陸上競技部は、男子走高跳2位、男子100mハードル4位、男子100m6位でインターハイ出場権を獲得した。
- ③北信越高等学校選抜卓球選手権大会では、女子は学校対抗で第3位入賞を果たした。
- ④全国高等学校選抜卓球選手権大会では、女子は学校対抗で第3位入賞を果たした。
- ⑤全国高等学校総合体育大会（インターハイ）に24名（昨年度21名）が出場した。  
卓球部は、男子学校対抗戦、男子シングルス、女子学校対抗戦、女子シングルス、女子ダブルスに出場した。  
水泳部は、女子200m自由形に出場、女子400m自由形では6位に入賞した。  
陸上競技部は、男子400mハードルに出場した。
- ⑥ぎふ清流国民体育大会県代表選手として、卓球少年女子に4名が出場し、第5位入賞を果たした。  
陸上競技部は、男子2名が少年男子B200m、4×100m、走高跳に出場した。
- ⑦ゴルフ部は、全国高等学校ゴルフ選手権に男子個人で出場した。
- ⑧ライフセービングは、第25回全日本ライフセービング・プール競技選手権大会で3位に入賞した。第25回ライフセービング大会オーシャンウーマン大会で7位であった。
- ⑨全日本卓球選手権大会に女子2名が女子ダブルスに出場した。
- ⑩ゴルフ部は、男子1名が2012（第10回）ジュニアオープンゴルフ選手権（英国・マンチェスター）で日本代表として出場し、6位であった。
- ⑪ライフセービングでは、女子2名が国際大会レスキュー2012ユース大会（豪州・アデレード）でユース日本代表として出場し、4位と8位であった。

#### (2) 進学実績（大学・短期大学進学率48.4%、専修学校25.4%）

※昨年度大学・短期大学進学率52.5%、専修学校20.8%

- ① 4年制大学進学率、地域6校中ベスト3。(中等教育学校を除く)
- ② 3年連続で国公立大学合格者を輩出した。
- ③ 難関私立大学(早稲田大、慶応義塾大、明治大、立教大、中央大、関西学院大等)の合格者(過年度生)を輩出した。
- ④ 夏期特進講座(6日間、国語6時間、数学6時間、英語6時間)・冬期特進講座(8日間、国語8時間、数学8時間、英語8時間)・サマーゼミ(2泊3日の学習合宿、国語5時間、数学5時間、英語5時間、個別指導等6時間)・春期特進講座(7日間、国語7時間、数学7時間、英語7時間)は前年度と同様に計画・実施した。  
サマーゼミ(2泊3日の学習合宿)は、昨年同様1、2年生を対象に妙高高原にて実施した。
- ⑤ 大学進学プログラム(7、8限、毎週土曜)  
月曜日、火曜日、木曜日、金曜日の8限及び水曜日の7、8限と土曜日の1、2、3限を利用し、大学進学に必要な受験指導をしてきた。
- ⑥ 高大連携教育(ブリッジプログラム)の実施  
1年のフレッシュマンセミナー、大学説明会(産大体験授業)、2年生の進路講演会、3年生の大学進学説明会等、附属高校独自のキャリア教育も大学側の多大な協力により予定どおり実施することができた。

### 3. 教育目標実現のために実施した事項並びにまとめ

#### (1) 教育目標と教育方針

##### 【教育目標】

- 1. 人生観の指導と自信のある生活態度の育成
- 2. 学習意欲と能力の向上
- 3. 自律自治と社会連帯の精神涵養

##### 【教育方針】

生徒一人ひとりを大切にすることを基本に据え、部活で燃えろ！進路で輝け！を合言葉に、全国に名高い部活動・進学校を目指す。

#### (2) 生徒への支援

##### 【教務部】

《今年度の重点事項》

- ① 平成24年度新教育課程についての実施
- ② 授業規律の向上
- ③ 基礎学力の確立
- ④ 進路指導部との連携による学習指導
- ⑤ 文化的な活動の積極的な取り組み
- ⑥ 授業時数確保と休業日の有効活用

《具体的な取り組み》

- ① 期限付きキャンペーン(各学期始めに出席率調査、各定期考査前にベル着席調査)を1～2週間で実施した。
- ② 各定期考査前に考査週間を設定し、考査準備を徹底させる。考査後に再考査の期間を設

け、赤点対象者を絞り込んだ。夏季休業中、冬季休業中、学年末にそれぞれ補習授業を行い、赤点の学期毎の解消を徹底した。

- ③コース毎に授業時数を集計し、定期的に点検し、当初の計画通りの授業時数を確保した。長期休業毎に「特進講座」を1週間実施し、進学希望者の学力増進を図った。
- ④大学進学プログラム、ブロードバンド予備校や放課後の自主学習を進路指導部と協力し、生徒の学習状況を点検し、適切な助言をしながら、希望進路の達成を支援した。
- ⑤統一祭において、学年合唱、パネル、修学旅行研修会の展示などを行った。また、PTA主催による講演会を開催した。

#### 《結果》

- ①「授業規律向上の取り組み」や「期限つきキャンペーン」により、学習意欲や授業態度に改善が見られた。
- ②基礎学力養成を視野に入れた授業展開を行うことにより、学習遅進者が減少した。
- ③進路指導部と連携した進路指導および学習指導を行ったため、概ね進路希望を達成できた。
- ④総授業時数は確保できたが、教科・科目によるばらつきがあった。次年度は教科・科目別の時数の適正化を図りたい。
- ⑤教務部会、教科会議において、成績評価、授業研究、生徒の情報交換などが積極的な会議が行われた。
- ⑥統一祭における取り組みにさまざまな工夫が見られ、たいへん充実したものになった。またPTA講演会では、講演者が自らの経験を基に講演し、生徒に感動を与えた。

#### 【生徒指導部】

##### 《今年度の重点事項》

- ①規律ある生活態度の育成、社会のルールやマナーの理解・実践
- ②生徒が授業や部活動、行事に主体的に参加するための援助
- ③制服の正しい着用

##### 《具体的な取り組み》

- ①基本的な生活習慣の確立（欠席・遅刻・早退の防止）と中途退学者の防止  
保護者からの連絡、届出を徹底させ、連絡がない場合には保護者に確認をした。不登校の生徒については、学校全体で共有した情報を持って丁寧に指導し、中途退学者を減らす努力をした。
- ②校内規律の確立（制服・頭髪・化粧・言葉遣い）と社会のルールの遵守  
制服・頭髪については定期的に各学年で検査を実施し、改善させた。化粧については、直ちに改善させた。
- ③学業に不必要な物品等を持ち込まない指導  
ゲーム機、音楽プレイヤー、カード類、雑誌類、化粧品、装飾品等の持ち込みを厳しく禁止した。
- ④立哨指導、巡視指導  
生徒玄関での生徒指導部を中心とした立哨指導並びに教師による当番制での安田駅での乗降車、マナー指導を実施した。
- ⑤長期休業の事前指導  
夏季・冬季・春季休業中の生活について生徒に文書を配布し、学年集会、各HRで事前

指導を実施した。また、保護者にも文書を配布し、期末PTA等で協力をお願いした。

⑥生徒会主催の県総体激励会、インターハイ・北信越・野球部激励会の実施

⑦月間毎の「正しい制服の着用強化月間」のキャンペーンと指導

腰パン禁止、シャツ出し禁止、ネクタイの正しい着用等月毎に取り組みを実施し、改善されない場合学年会面接、生徒指導部長面接、副校長面接と段階的に指導をした。

《結果》

①無断欠席、無断早退がなく、生徒の所在が確認できた。不登校生徒は家庭訪問で状況把握ができた。

②頭髪の改善については、保護者に連絡し協力を得られた。高校生らしい清楚な容姿になってきた。

③授業姿勢、雰囲気向上し生徒、教師共に相乗効果があった。

④挨拶指導、服装指導に効果があった。安田駅の乗降車、マナー指導は社会のルール遵守に効果があった。

⑤長期休業中は事故・事件はなかった。

⑥北信越大会、インターハイ、国体に多くの生徒が出場し、入賞を果たした。

⑦正しい制服の着用については、段階的な指導を実施した。生徒はルール遵守の重要性が理解できた。

#### 【進路指導部】

《今年度の重点事項》

- ・学習する雰囲気を高め、基礎基本を重視すると共に、全般的な学力向上に努力する。
- ・進学指導を強化し、大学進学率を高める。
- ・進路指導が学年毎に、段階的、系統的に行われるように次の指導方針を置く。

1年：意欲を持たせ、自分の理想とする生き方や将来の方向、職業を考える。

高校生活への適応を図り、将来の進路について具体的な目標を追求する。

2年：自分の興味・関心・能力を客観的につかむ。

高校生活への充実を図り、適切な進路選択のため、自己理解を深めさせる。

3年：社会的自己実現のため、適切に進路を決定させ、目標達成のため、努力させる。自分の興味・適性・能力と進路情報を考え合わせ、進路を考えさせる。

《具体的な取り組み》

①進路の手引きの作成や、進路希望調査を実施した。

②進路指導室については、生徒が利用しやすいスペース作りや資料の蓄積と整理をした。また、センター試験、就職試験への激励会を実施した。

③就職希望者の全員内定を目指し、「就職試験対策ゼミ」「ハローワーク相談室」「就職ガイダンスⅠ」「就職ガイダンスⅡ」「4者面談」等を実施した。

④カレッジコースの卒業時までの継続した進路指導として、センター試験説明会を学期毎に実施した。

⑤大学進学者の増加策として、学年毎の進学指導を強化し、国公立大学への推薦選抜入試の指導やラーナーズクラブ（勉強部）を創設して大学進学者数の底上げを図った。

⑥教務部とタイアップして、大学進学プログラム・サマーゼミ等を充実させ、校内予備校の導入に向けた取り組みを図った。

⑦履歴書に書ける特技や資格を身に付けさせる目的から、各種資格の取得を奨励した。

- ⑧新たな求人先の開拓を目指し、積極的に企業訪問を行った。
- ⑨社会人としての心得についての指導を目的に、社会人準備セミナーを実施した。
- ⑩広報とリンクし、「部活で燃えろ進路で輝け」及び「部活で燃えろ進路で輝け地域版」を地域（上越、長岡を含む）に配布した。
- ⑪新たな大学の指定校枠の開拓をした。

《結果》

- ①進路の手びきを作成し、全校生徒・保護者に配布した。進路意識調査は学期毎に実施したが、全体的には教師側の指導もあり、進学志向が高まってきている。
- ②進路指導室については、進学や就職の情報収集・面接練習或いはセンター試験受験の勉強スペースとして利用する生徒が多かった。センター試験激励会については、試験前日は校内で、試験当日は会場にて、校長をはじめ保護者も参加して、他校よりも盛大に受験生の激励を行うことができた。就職試験激励会についても、校長の激励と就職内定祈願を受け、試験本番に臨むことができた。
- ③就職試験対策ゼミを開催し、「クレペリン検査」「作文」「一般常識」等就職試験に向けた指導を行い、事前学習・事前準備を促すことができた。ハローワーク相談室では、校内で職安職員より就職応募に向けた指導を受けた。また、就職ガイダンスⅠにおいては、就職試験までの流れや就職試験の厳しさ、或いは進学への方向転換等を含めて説明をし、気を引き締めることができた。更に厚生労働省主催による就職ガイダンスⅡでは、職業指導員から面接の受け方や就職への心構え等の指導を受け、実践力を身につけることができた。未内定者については、保護者、生徒、担任、進路指導部の4者で将来についての方向を探りながら、ハローワークに出向き、面談等の指導を重ね希望者全員が内定することができた。
- ④2、3年生カレッジコースを対象としてセンター試験説明会を実施した。内容としては「センター試験受験の意義」や「出願書類の書き方」等を指導した。
- ⑤進学意識を高める為と「高・大連携教育」の実践的な取り組みの一環として、1年生を対象として「フレッシュマンセミナーや産大体験授業（5分野に分かれて授業）を実施し、大学生活の一端を体験することができた。2年生では「新潟大学見学会」や「進路ガイダンス」3年生では「進学説明会」等を実施した。また、産業大学の教室を借用して、センター試験対策ゼミを実施した。3年生20名が参加し、自学自習の習慣づけと学力向上に努めることができた。国公立大学の推薦選抜入試にも複数の生徒をチャレンジさせ、合格者を出すことができた。更にラーナーズクラブ（勉強部）を創設して将来的な大学進学者数の底上げを図っている。
- ⑥サマーゼミ（学習合宿）を妙高高原で実施した。カレッジコース1年23名、2年23名が参加し、学習習慣と効率的な学習法を身に付けることができた。また、校内予備校説明会を開催した。保護者5名、生徒46名が説明会に参加し、ブロードバンド予備校からの説明を受け、新年度より導入を図る運びとなった。
- ⑦就職希望者を対象として手話講座を開催し、柏崎市職員の方から指導を受けた。基本的な部分ではあるが、受講者には特技の1つとして体得させることができた。また、資格取得を奨励・指導した。柏崎労働基準協会によるクレーン資格講習で10名が資格を取得できた。
- ⑧企業訪問を実施した。職場への定着指導や今後の求人開拓に結び付く感触も得ることができた。
- ⑨就職希望者を対象として、社会人準備セミナーを実施した。「社会でのマナー」について、

にいがたキャリアサポーター講師より講演を受け、社会人としての緊張感をもたせることができた。

⑩進路指導ニュース「部活で燃えろ進路で輝け」の発行により、生徒に対しては進路に対する意識付けと自信を持たせ、地域に対しては本校をPRする活動の一助にもなり「生徒募集」に役立てることができた。

⑪生徒のニーズに合わせた分野を有する新たな大学の指定校推薦枠を積極的に開拓した。新規に指定校枠をいただいた日本福祉大学、中央学院大学等に加え、新規学科では日本大学機械工学科や富山福祉短期大学看護学科等への指定校枠を得ることができた。

## 4. 生徒募集

### (1) 中学校訪問の強化（長岡・上越地域の生徒の増加のために）

第1回、2回での中学校訪問は、午後から授業のない考查期間中に実施、第3回は訪問者の授業時間割を考慮し、訪問日を分散させた。第4回は二次入試の出願日程に合わせて設定した。

第1回中学校訪問（広報活動、情報収集）7月3日（火）

柏崎、長岡、魚沼、十日町、上越、三条 71校（昨年度70校）

第2回中学校訪問（生徒募集並びに広報活動、学校見学会案内）10月16日（火）、10月17日（水）

長岡、魚沼、十日町、小千谷、上越、三条 55校（昨年度50校）

第3回中学校訪問（推薦・一次入試に向けて、中学校の出願状況、情報収集及び募集活動）12月4日（火）、5日（水）、6日（木）、7日（金）、10日（月）

柏崎、長岡、魚沼、十日町、小千谷、上越、三条 71校（昨年度70校）

第4回中学校訪問（二次入試に向けて、情報収集及び募集活動、推薦・第1次入試、自己推薦入試の報告）3月4日（月）3月5日（火）

柏崎、長岡、小千谷、上越 58校（昨年度57校）

### (2) 高校説明会（中学校からの依頼参加）

<柏崎・刈羽地区（13校）13回>

- |                      |                      |
|----------------------|----------------------|
| ① 6月14日（木）柏崎市立瑞穂中学校  | ⑧ 7月10日（火）柏崎市立南中学校   |
| ② 6月15日（金）刈羽村立刈羽中学校  | ⑨ 7月11日（金）柏崎市立松浜中学校  |
| ③ 6月19日（火）柏崎市立第五中学校  | ⑩ 7月17日（火）柏崎市立高柳中学校  |
| ④ 6月20日（水）柏崎市立第一中学校  | ⑪ 7月18日（水）柏崎市立第三中学校  |
| ⑤ 6月21日（木）柏崎市立鏡が沖中学校 | ⑫ 9月7日（金）柏崎市立北条中学校   |
| ⑥ 6月22日（金）柏崎市立第二中学校  | ⑬ 10月16日（火）柏崎市立西山中学校 |
| ⑦ 6月26日（火）柏崎市立東中学校   |                      |

<長岡地区（4校）4回>

- |                      |                      |
|----------------------|----------------------|
| ① 6月15日（金）長岡市立青葉台中学校 | ③ 6月22日（金）長岡市立越路中学校  |
| ② 6月21日（木）長岡市立東北中学校  | ④ 10月26日（金）長岡市立秋葉中学校 |

<十日町地区（1校）1回>

- ① 7月13日（金）十日町市立十日町南中学校

<上越地区（9校）9回>

- ① 6月20日（水）上越市立八千穂中学校 ⑥ 7月10日（火）上越市立大潟町中学校  
 ② 6月22日（金）上越市立板倉中学校 ⑦ 7月13日（金）上越市立城北中学校  
 ③ 6月22日（金）上越市立春日中学校 ⑧ 9月22日（土）上越市立直江津東中学校  
 ④ 6月26日（火）上越市立城東中学校 ⑨ 9月25日（火）上越市立柿崎中学校  
 ⑤ 6月27日（水）上越市立直江津中学校

<糸魚川地区（1校）2回>

- ① 6月22日（金）糸魚川市立糸魚川中学校  
 ② 7月9日（月）糸魚川市立糸魚川中学校

(3) 中学校教師対象入試説明会

9月21日（金） 18校 18名 （平成23年度20校 20名参加）

柏崎市立第一中学校、第二中学校、第三中学校、鏡が沖中学校、瑞穂中学校、松浜中学校、東中学校、第五中学校、西山中学校、新潟県立柏崎特別支援学校、刈羽村立刈羽中学校、出雲崎町立出雲崎中学校、長岡市立宮内中学校、東北中学校、青葉台中学校、小国中学校、長岡市立川口中学校、津南町立津南中学校

(4) 学校見学会（オープンスクール）

第1回学校見学会 7月13日（土）（部活動体験、産附弁当配付）

63名（昨年度87名）

第2回学校見学会 10月19日（金）（授業・部活動体験、産附弁当配付）

207名（昨年度155名）

（参考）平成15年50名、平成16年86名、平成17年56名、  
 平成18年76名、平成19年90名、平成20年168名、  
 平成21年170名、平成22年度145名  
 平成23年度242名

※学校見学会には、予想を超える中学生の参加があり、授業や部活動の見学・体験から、志願者の増加につながった。

(5) 募集結果

学科	募集学級	募集定員	区分	志願	受験	合格	入学 手続	入学 許可
普通	4	160	専願推薦	51	51	51	51	51
			スポーツ					
			自己推薦	6	6	4	4	4
			一般	74	74	64	64	64
			併願推薦	302	301	301	23	23
			計	433	432	420	142	142

## 5. 新規取組事項

- (1) 卓球部、陸上競技部、ゴルフ部が県の事業である「魅力ある私立高校づくり支援事業」の指定を受け、3年間事業に取り組んでおり、2年目となる24年度からは、卓球部が県外遠征、陸上競技部が国内トップレベル指導者による講演会、ゴルフ部がプロによるレッスン等の新たな取組みを始めた。

- (2) グラウンドの改修工事を実施した。
- (3) コンピュータ実習室のPCについて、サーバーを含め42台の入れ替えをした。
- (4) 特別教室棟と講堂棟の耐震診断を実施した。
- (5) 平成24年度卒業記念事業として、教室棟玄関上部に、大規模な塔時計を設置した。
- (6) 修学旅行先においては、新たな試みとして英語学習の一環も兼ねグアムに渡航した。
- (7) 当校の教育活動内容を広く浸透させるために広告等掲載を強化し、柏崎地区は「柏崎情報パーク」、上中越地区は「新潟日報上中越版等」、さらには「JR列車の時刻表」に本校広告を掲載した。

# 3部 財務の概要

## 平成24年度決算の概要について

新潟産業大学並びに新潟産業大学附属高等学校を経営しております学校法人柏専学院の平成24年度決算は、下記のとおりとなりました。

なお、本法人は、学校法人会計基準(昭和46年文部省令第18号)に準拠した適正な会計処理を行っております。

### 資金収支計算書

平成24年4月 1日から  
平成25年3月31日まで

学校法人 柏専学院

(単位 円)

収入の部				
科目	科目の主な内容	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	入学金、授業料等の納付金	566,310,000	569,061,635	△ 2,751,635
手数料収入	入学検定料、証明手数料など	11,080,000	11,246,177	△ 166,177
寄付金収入	本法人に対する寄付金、 但し現物寄付は除く	837,000	766,830	70,170
補助金収入	国、地方公共団体などから 交付される補助金	317,668,000	319,317,644	△ 1,649,644
国庫補助金収入	国などからの補助金	( 127,036,000 )	( 127,039,520 )	( △ 3,520 )
地方公共団体補助金収入	県などからの補助金	( 190,632,000 )	( 192,278,124 )	( △ 1,646,124 )
資産運用収入	預金・有価証券等の利息	14,249,000	14,385,383	△ 136,383
資産売却収入	有価証券等の売却	30,000,000	129,904,533	△ 99,904,533
事業収入	学生寮の寮費、公開講座・ 受託事業収入等	36,476,000	36,850,486	△ 374,486
雑収入	上記以外の収入	108,423,000	112,625,486	△ 4,202,486
前受金収入	平成25年度入学生にかかる 納付金など	55,431,000	58,667,980	△ 3,236,980
その他の収入	本法人に帰属しない収入	68,798,735	72,075,995	△ 3,277,260
資金収入調整勘定	当年度の収入と現預金等の 整合を保つための調整勘定	△ 117,754,825	△ 138,114,159	20,359,334
前年度繰越支払資金	平成23年度から繰り越された 現預金	1,144,692,308	1,144,692,308	
収入の部合計		2,236,210,218	2,331,480,298	△ 95,270,080
支出の部				
科目	科目の主な内容	予算	決算	差異
人件費支出	教職員、役員等の給与・手当	798,753,000	799,437,459	△ 684,459
教育研究経費支出	教育研究のために要した経費	273,590,000	263,987,519	9,602,481
管理経費支出	教育研究経費以外の経費	138,666,000	133,822,048	4,843,952
借入金等利息支出	借入金の返済利息	0	0	0
借入金等返済支出	借入金の返済金	0	0	0
施設関係支出	建物、構築物	4,702,000	6,332,550	△ 1,630,550
設備関係支出	備品、図書	10,069,000	8,491,074	1,577,926
資産運用支出	有価証券等の購入 特定預金への支出	133,285,000	229,600,597	△ 96,315,597
その他の支出	上記以外の支出	47,139,854	47,480,794	△ 340,940
〔予備費〕	当年度の予備費使用額	( 0 )		
	当年度の予備費の未使用額	19,200,000		19,200,000
資金支出調整勘定	当年度の支出と現預金等の 整合を保つための調整勘定	△ 16,882,258	△ 22,630,560	5,748,302
次年度繰越支払資金	平成25年度へ繰り越す現預金	827,687,622	864,958,817	△ 37,271,195
支出の部合計		2,236,210,218	2,331,480,298	△ 95,270,080

【資金収支計算書とは】

①当該年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容を明らかにする。

②当該会計年度の支払資金(現金及びいつでも引出すことができる預貯金)の収入及び支出のてん末を明らかにする。

## 消費収支計算書

平成24年4月 1日から  
平成25年3月31日まで

学校法人 柏専学院

(単位 円)

消費収入の部				
科 目	科目の主な内容	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	入学金、授業料等の納付金	566,310,000	569,061,635	△ 2,751,635
手 数 料	入学検定料、証明手数料など	11,080,000	11,246,177	△ 166,177
寄 付 金	本法人に対する寄付金、 現物寄付を含む	1,887,000	1,908,220	△ 21,220
補 助 金	国、地方公共団体などから 交付される補助金	317,668,000	319,317,644	△ 1,649,644
国庫補助金	国などからの補助金	( 127,036,000 )	( 127,039,520 )	( △ 3,520 )
地方公共団体補助金	県などからの補助金	( 190,632,000 )	( 192,278,124 )	( △ 1,646,124 )
資産運用収入	預金・有価証券等の利息	14,249,000	14,385,383	△ 136,383
資産売却差額	資金収支の資産売却収入から 売却資産の簿価を引いた差額	0	7,669	△ 7,669
事業収入	学生寮の寮費、公開講座・ 受託事業収入等	36,476,000	36,850,486	△ 374,486
雑収入	上記以外の本法人への消費収 入	108,543,000	112,756,407	△ 4,213,407
帰属収入合計	本法人の純財産を増加させる 収入の合計	1,056,213,000	1,065,533,621	△ 9,320,621
基本金組入額合計	教育に欠かせない資産を取得 した場合に組み入れる額	△ 10,029,000	0	△ 10,029,000
消費収入の部合計		1,046,184,000	1,065,533,621	△ 19,349,621
消費支出の部				
科 目	科目の主な内容	予 算	決 算	差 異
人 件 費	教職員、役員等の給与・手当と 退職給与引当金の組入額	798,394,000	788,556,866	9,837,134
教育研究経費	教育研究のために要した経費 (減価償却額を含む)	359,590,000	349,734,089	9,855,911
管理経費	教育研究経費以外の経費 (減価償却費を含む)	163,966,000	155,397,098	8,568,902
資産処分差額	備品、図書を処分にかかる帳簿 価額との差額	20,300,000	19,334,010	965,990
徴収不能額	未収入金等で当期において回収 不能と判断した額	0	1,117,000	△ 1,117,000
[ 予 備 費 ]	当年度の予備費使用額 (消費収支上の予備費) 当年度の予備費の未使用額 (消費収支上の予備費)	( 0 ) 18,200,000	/	 18,200,000
消費支出の部合計		1,360,450,000	1,314,139,063	46,310,937
当年度消費収支差額	当年度の収支差額 [消費収入の部]-[消費支出の部]	△ 314,266,000	△ 248,605,442	/
前年度繰越消費収支差額	平成23年度からの繰り越された 消費収支差額	△ 1,867,561,647	△ 1,867,561,647	/
基本金取崩額	基本金の取り崩し額	0	51,051,151	/
翌年度繰越消費収支差額	平成25年度へ繰り越される 消費収支差額	△ 2,181,827,647	△ 2,065,115,938	/

**【消費収支計算書とは】**

当該年度の消費収入と消費支出を対照して収支及び資産の均衡の状態を表す。

**【基本金とは】**

学校法人の継続的な運営のために維持しなければならない基準金額の事。

**【基本金組入額とは】**

学校法人が最低限保有しなければならない財産の額を帰属収入より差引く事。